



発行責任者：会長 篠原 出 事務局：北杜市明野町浅尾 3475 番地
TEL 0551-25-3014 入戸野 仁師 ホームページアドレス
<http://www.taisakukyo-akeno.org> e-mail:info@taisakukyo-akeno.org

号外！明野処分場でまた事故！

今度の場合は、前回よりずっと深刻

アスベスト含有物の下が 40m に渡って破断

Q：土の下にある遮水シートが破けたことがどうして分かったのですか？

A：処分場の底部には二重の遮水シートがあります。その間に電極が通っていて、シートが破けると汚水による通電によって異常を知らせる検知システムが働いているからです。

Q：事業団の発表では「上層だけが破けただけで漏水はない」ということですが、なぜ上層だけと言えるのですか？

A：「上層だけ」というのはまったく根拠がありません。むしろ、下層シートも一緒に破けて危険な汚水が流れ出している可能性が高い。下層シートの下には電極がありませんから地中の状態は分かりません。廃棄物と覆土の厚みは、まだ 5m(最終的には 11m の予定)ということですが、それでさえ裂け目に十数トンもの圧力がかかります。上層シートが破けたら下層シートも一緒に破れる、と考える方が自然です。

Q：検知システムが「12 地点で異常反応を示した」と発表されていますが、12箇所破けたという意味ですか？

A：違います。検知された場所がシステム中の 12 箇所ということで、破断はもっとずっと多いと思われます。今回の事故を著名な専門家に問い合わせたところ、その専門家から「私の経験からおそらく数百カ所は破れているだろう」と聞かされ、思わず青ざめてしまいました。

Q：いっぺんに「12 カ所で異常反応」というのは不自然な気がしますが？

A：遮水シートは以前から破けて漏水しており、それが一気に拡がったのかもしれません。怪しいと思われることは、4つある観測井戸のうち 3 号井戸だけが以前から異常に高い電気伝導率を示していること。危険な汚水が地下水の中に漏れ出している可能性があります。この異常事態をずっと訴え続けていますが、事業団はその事実を知りながら原因を究明しようとしません。地下水汚染が始まったら、それを飲料水にしている集落の住民に取り返しのつかない被害を及ぼすでしょう。

Q：「漏水時の最大値は 6.4 リアペアに想定されている」そうですが、今回は「50 リアペア」という予測を超えた数値が出ています。これはどのような数値なのですか？

A：「50 リアペア」とは検知システム機器の最大数値です。つまりメーターをふり切った、とほうもなく危険な数値になっているのです。

Q：アスベスト含有物の下が破断しているようですが、その修理は危険ではないのですか？

A：とても危険です。掘り返すことで、目視できないアスベストが飛散し、作業員はもちろんのこと、周囲の集落に健康被害を及ぼす可能性があります。しかし病気が発症するのは十数年後ですから、若者や子供たちのことが心配です。

修理費用として莫大な資金投入が必要

Q：この事故の修理に、どのくらいの費用がかかるのでしょうか？

A：事業団の説明では、アスベスト埋め立て地ではない場所をたった一ヵ所掘って修理するだけで驚くほど莫大な費用がかかるようです。飛散性アスベスト埋め立て地であればテント状のもので覆って穴を掘ると言っていたので、さらに大きな経費になると思います。今後、破断箇所はますます増えるでしょうから、これまでの修理費に加えて今後、さらに大きな負担になっていくでしょう。

Q：運営していても赤字が累積していく明野処分場ですが、それに加えて操業停止や修理費用が重なり、いったいどうなってしまうのでしょうか？

A：山梨県によるゴミ処理行政が失敗だったことを認め、根本から考え直す必要があります。用地選定時の不正な手続き、計画を強引に進めるためのデータラメな収支計画、住民による問題指摘の無視など、県の過ちは幾重にも積み重なっています。住民の安全のため、赤字減少のためにできる最良の判断は、この処分場を早急に停止させることです。